

できれば、リスクスコア・偏差との関連を統計学的に解析することで、リスクスコア・偏差から医療過誤による医療費用を推定することが理論上可能となる。同様に、医療安全教育プログラムにおいて、受講生が自施設において削減したリスク量によって、どの程度、医療過誤による医療費を削減できたかを推定することも理論上可能となる。

E. 結論

インシデントレポートから医療組織のリスク量を数値化することに成功した。また、医療の質・患者安全に専門性を有する医師人材養成プログラムを開発、実施(150時間)した。医療組織を継続的にモニタリングおよび支援し、医療安全教育プログラムを継続的に改善する体制を構築した。

本研究で開発したリスク指標を用いることで、病院間、部署間リスク比較、リスクの経年的変化の把握、リスク原因の特定、医療安全教育への応用等が可能となる。さらには、外部監査、行政監査時における客観指標としての活用や、リスク低減による医療費削減効果の測定、医療事故予知への応用等が期待できる。また、本研究で開発した人材養成プログラムと、その評価システムは、医師のみならず、多職種(看護師、薬剤師、その他)の医療安全人材養成にも応用可能である。

F. 健康危険情報

本研究に関する健康危険情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

- ・「患者安全への提言」(日本評論社)
- ・医療の質・安全学会誌第14巻第1号
- ・患者安全推進ジャーナル No.58 総説
- ・「インシデント報告とその活用」Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery 34:1404-1406;2018.
- ・「医師からのインシデント報告推進のポイント」医療安全レポート(医療安全全国共同行動) 19:21-23;2018
- ・「院内ラウンドのススメ」医療安全レポート(医療安全全国共同行動) 20:21-23;2018
- ・「病院全体で M&M カンファレンスを始めよう」医療安全レポート(医療安全全国共同行動) 21:24-26;2018
- ・「医療安全・質向上への取り組みの実際」診断と治療 107;6:638-643;2019
- ・「インシデント報告に対する医師、特に研修医・若手医師へのアプローチ」患者安全推進ジャーナル 58:24-29;2019.
- ・「フィードバックで促す研修医のインシデント報告」週刊医学界新聞 3337号:4-5;2019.

2. 学会発表

- ・「患者安全の未来予想～『遅延型アレルギー』への処方箋～」第13回医療の質・安全学会学術集会 大会長講演

2018.11.25 名古屋

・「患者安全の世界的目標と日本が果たすべき役割」第 13 回医療の質・安全学会学術集会 パネル 2018.11.24 名古屋

・「インシデント・アクシデントレポートの自動トリアージ」第 13 回医療の質・安全学会学術集会 口演 2018.11.25 名古屋

・「病院組織が抱えるリスクは量的に可視化可能か」第 14 回医療の質・安全学会学術集会 口演 2019.11.29. 京都

・「有害事象から学ぶ医療安全対策」日本消化器外科学会学術総会 特別企画Ⅱ 2018.7.11 鹿児島市

・「インシデントレポートの活用～看護手順の整備から医療の質向上を目指す」第 13 回医療の質・安全学会学術集会 口演 2018.11.24 名古屋

・「医療の質向上と患者安全～報告文化と医療安全」第 30 回日本医学会総会 2019.4.28 名古屋

・「歯科衛生士のインシデント報告に基づいた取り組みと改善」第 14 回医療の質・安全学会学術集会 口演 2019.11.29 京都

3. 報道取材

・NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で医療安全活動全般について紹介 (2019/2/25)

・NHK WORLD-JAPAN 「Medical Frontiers」で医療安全活動全般、医師人材養成事業について紹介 (2019/7/16)

・朝日新聞でリスク指標について紹介 (2019/7/18)

・読売新聞でリスク指標について紹介 (2019/7/29)

・共同通信で医療安全活動全般・医師人材養成事業について紹介(愛媛新聞 2019/12/2、毎日新聞 2019/12/7 等々)

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

出願中(2019/11/7 出願)

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし